「商品ファンド」のメリット

運用はプロに 分散投資で危機回避

新・商品先物入門 ㉖

日本商品先物振興協会
小島 栄一

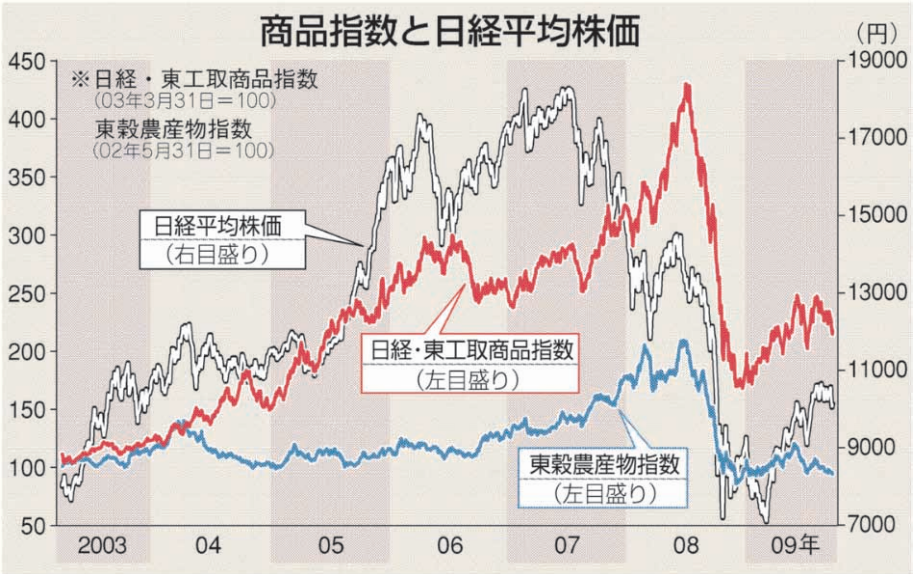
商品ファンドは、投資家から募った出資金を主として商品先物市場に投資し、そこから得た収益金を投資家に還元するタイプの投資商品です。いわば株式ファンドや債券ファンドの〝商品版〟で、低いコストで分散投資を実現したい、あるいは商品先物取引に興味を持ちつつも自分で取引するほどの自信がないという投資家にうってつけの投資商品です。

多彩な戦略可能

商品ファンドのメリットは大きく3つ。1つは、投資家の少額な投資金額をまとめることで、さまざまな投資戦略を可能にする点です。例えば50万円の資金は金標準先物取引5枚分の証拠金にも足りませんし、そうした取引は〝投資〟の観点からはリスクが高過ぎます。

リスクを抑えながらある程度の収益を目指すにはそれなりの戦略が必要です。時には世界の複数の商品市場を用いてスプレッド（サヤ取り）ポジションを構築したり、〝損失限定・利益無限大〟のポジションを組むために先物とオプション取引を同時に建玉する必要が生じるかもしれません。そのためには資金力が不可欠で、それを可能にするのがファンドの仕組みなのです。

2つ目のメリットは、投資のプロフェッショナルに資金運用を任せられることです。投資戦略の立案、その戦略に基づく的確な取引の執行、ポジションの十全な管理―をプロに委託し収益の向上を狙います。もちろんそうしたプロを個人で雇うのは至難の業。その経費を〝ワリカン〟にするから投資家は安価にプロの技を享受できるのです。



最後は、分散投資効果の獲得です。この前提として、商品と、株式や債券など伝統的資産の、価格変動に関する相関性の低さがあります。一昨年の金融危機では、株式・債券市場が暴落に見舞われた一方で、金や穀物、石油などの商品市況は歴史的な高値を記録していました。つまり、投資家は資産のすべてを現金と株や債券で持つのではなく、一部を商品に投資しておけば、金融危機による大きなダメージを回避できたはずです。これが分散投資の効果ですが、実際に穀物や原油を買って倉庫にしまっておくわけにはいきませんから、その代替手段として商品ファンドへの投資が有効性を発揮してくれるのです。

市況連動型とセクター型

商品ファンドは先物会社で購入できます。ただし商品によってそれぞれ投資性向が異なるので、購入に際しては違いをよく調べなくてはなりません。

分散投資の目的では〝商品市況連動型〟のファンドがお勧めです。連動型は商品市況全般の動向がファンドの運用成績に忠実に反映されるようにポジションを取るため、市況の好調局面では利益が、逆に不調局面では損が生じます。ただし中には〝ベア（弱気）型〟ファンドもあり、こちらは市況が落ち込むほど利益を得られます。

商品を絞り込んだ〝セクター（特化）型〟ファンドもあります。例えば金に特化したファンドがそれで、東京工業品取引所やコメックス（ニューヨーク商品取引所）などの先物市場のほか、証券取引所に上場されている金ＥＴＦ（上場投信）や金鉱山株などを投資対象に組み込んでいます。もちろん、金価格が上昇すれば利益が獲得できる仕組みです。

商品ファンドは優れた投資商品ですが、元本割れリスクがあったり、預金保険やクーリングオフの適用対象除外となっている場合もあります。購入の際にはそうした点も十分に考慮しなければなりません。